

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット共通 /1階2階3階)

事業所番号	2791700079		
法人名	株式会社 フレンド		
事業所名	グループホーム フレンド筆ヶ崎		
所在地	大阪市天王寺区筆ヶ崎町3丁目20番		
自己評価作成日	令和3年10月14日	評価結果市町村受理日	令和3年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は鶴橋駅から徒歩近く、ご家族様の面会がしやすい場所にあります。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、今までできていた施設から近い場所にある公園への散歩、コンビニへの買い物ができなくなりましたが、食レク、イベントを開催して入居者様の楽しみを増やしてきました。更にはお隣には元氣学園の園児たちが遊んでいるので、換気の為、窓を開けているので元氣な声がよく聞こえてきます。入居者様もその声に元氣をもらっています。不適切ケアとはどういったものなのかを理解してもらうため、定期的に不適切ケアのチェックを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成26年1月に開設された当事業所は、大阪市・東大阪市に6グループホームを有する(株)フレンドを事業母体とする。事業所周辺は多くのテナントが入っているビル群、日本赤十字病院、飲食店、保育園があり一般住宅が少ない環境下で、地域の中の一員としての生活維持に腐心しながら理念にある「地域の中でその人らしく暮らし、地域に密着した尊厳ある生活、その人らしく暮らす」の具現化に努めている。利用者の関係者(家族・知人・地域の人)の支援を取り入れたインフォーマルケアを推し進め、法人制定のマニュアルを基に研修を積み重ねて、職員夫々の意識の徹底と業務習得の向上を図っている。又新入職員に対して既存職員のバックアップ体制と働きやすい環境を整え定着率を高めたいとしている。服薬時の誤薬や飲み忘れの防止に薬剤の用量・回数をコントロールするロボットを活用や利用者の状態記録をタブレットで網羅して、効率化と充実を図っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年10月28日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく、尊厳のある生活を実現してもらおう。を理念としています。ミーティングなどで話し合い、実践できるように取り組んでおります。	事業所理念と今年の行動目標“こころづかいで広げよう笑顔の輪”を玄関と各ユニットの目につく所に掲示し、家族・第三者への周知と職員の意識徹底を図っている。毎月のフロアミーティング時で確認と行動実践を振り返りケアの向上に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じ、地域のイベント等の情報交換を行っている。	コロナ禍以前は近隣の公園での祭り見物や、公民館へ出かけ100才体操の参加・隣接の保育園児との交流等を行っていたが、今年度は全て中止となっている。今後地域ボランティアや中・高生の体験学習の受け入れを検討している。	近隣に一般住宅が少ない地域性で地域交流が難しい環境下にあるが、地域のボランティアの受け入れで多角的な交流を得ると共に、福祉施設での体験学習の受け入れを通して、認知症や介護の啓発を推し進める事に期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設での取り組みや、イベントの開催報告など運営推進会議を通じて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報交換を頂きながら、地域包括職員様にも参加頂き、意見を述べて頂いている。新型コロナウイルス感染防止対策の為、書面開催を実施することもある。	運営推進会議の実質開催は2回で、書類での報告を4回行なっている。会議構成メンバー(地域包括支援センター・ケースワーカー・自治会長・家族)へ事前の意見収集を行い、事業所の現状、イベント・事故報告や研修内容のお知らせを記した議事録を玄関に掲示し、メンバー全員に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	公費の方が多く、担当ケースワーカーさんと話す機会が多く、色々と支援にかかわるアドバイスを積極的に頂いている。	天王寺区の高齢福祉施設課の窓口や電話で、事業所の現状報告や取り組み内容を伝え、指導・アドバイス・情報を得ている。公的扶助受給者が多く諸手続きと報告の連携を頻回に行い、ケースワーカーの来所や運営推進会議の参加を得る等、双方向的な関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない為に、研修の中に取り込んだり、また身体拘束適正会議を定期的を実施している。	身体拘束適正化の研修(年2回)や委員会(2ヶ月に1度)を実施し、毎月具体的な現場での事例を記入しているチェックシートを参考に、職員全員で振り返りシートを作成して内容の把握と習熟に努めている。玄関は施錠しているが、各階のエレベーターの行き来は自由となっている。夜間のみセンサーマット使用者には家族の了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、新人研修や、コンプライアンス研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人と職員との話し合いをもうけ、支援を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	都度、ご家族様とご利用様様の相談援助を実施している。担当者会議の時にも確認など行うようにしている。	利用者には寛げるお茶の時間やリラックスできる入浴時の機会に傾聴し、家族には電話(以前は訪問時)で聴取している。法人の方針で面会の自粛となっているが、家族からの要望で窓越し面会を直近で1回実施している。今後は家族が面会し易い場面づくりを取り入れたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット毎に会議を開催し、意見陳述が行える機会を設けている。個別でヒヤリングなどの時にも意見を聞いたりしている。	毎月のフロアミーティングで意見・提案・気付きを聞き、改善できる事案は即取り入れている。日々の暮らしの中で利用者の状態(排泄・入浴・食事・バイタル・特記事項)をタブレットに記入し、全体で共有と検討を図っている。排泄時に皮膚疾患を見つけ、早期の塗薬の処置を行うなど健康管理に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修等を実施したり、教育支援制度を利用し、資格取得したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質を向上させるため、法人内の他事業所で起きた事故が起きた際の対策方法などを共有し、法人として同じ対策が取れるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どうしても緊張されるので、安心してお話できる環境作りをしてから、困っていることや、していきたいことなどを確認をしより良い関係を作れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回見学時に、入所を考えられるきっかけを確認しながら、またニーズを聞き支援できることなどを伝える。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、面談時に、お話しし、ご家族にもニーズや出来ていることや出来ない事を確認し、ご本人の生活歴なども確認して対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事をして頂き、できない事も支援しながら少しでもご自分の力を出せるよう支援している。また、ご利用者様同士が協力できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のご要望を聞きながら、ご家族にも情報を頂き、協力をお願いしながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご友人と定期的に電話でお話をされている方もいらっしゃるし、また、家族に写真などを持って来て頂いたり、支援に努めている。	緊急事態宣言下での規制や制約がある昨今は、馴染みの人や家族の訪問及び行きたい場所への外出が困難となっている。電話の取次ぎや手紙のやり取りのサポートを行い、日々の会話で思い出話を取り上げて馴染みの事柄を呼び起こしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が気が合う方の近くに席を作ったり、間に職員が入り、場を盛り上げたりしながら、関わりあえるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の他、日常の中でコミュニケーションをとりながら思いをくみ取り、ご家族様と一緒に相談させて頂きながら一人一人のらしさを把握できるようにしている。	一人ひとりの暮らし方や生活のニーズを把握する為日々の言葉・表情・行動に関心をはらい汲み取っている。グループホーム日誌やタブレットに記録して、本人本位の立場の思いや意向について職員間の共有を図っている。意見表示が難しい人は、家族から聞き取って暮らし方の最善策を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の他、以前のケアマネージャーやご友人に聞いたりし、入居されてからコミュニケーションの中でも、お話が引き出せるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍で担当者会議で多職種が集うことができないが、来訪時にそれぞれの立場からのご意見を伺い、ご家族様とも電話で意見交換をしている。	毎月のカンファレンスで現状を把握し、6ヶ月毎のモニタリングで課題分析を行っている。計画作成前の担当者会議は管理者・ケアマネージャー・職員参加で行い、主治医・家族・利用者に事前の所見と意見収集を行っている。計画書交付時は電話で内容説明し、郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのほかに介護方法を詳細に示した手順書を作成し統一したケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要物品はご家族様にお願いをしているが、都合のつかない方の代わりに買い物、通院支援をすることもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	主治医と連携し、常に連絡を取るよう努めている。	入居時に利用者・家族の了承のもと、全員が協力医をかかりつけ医としている。内科は月2回の往診があり、24時間対応が可能である。往診前に質問事項をまとめ、医師の回答を職員間共有し、家族には職員から連絡をしている。歯科も月2回の往診があり、歯科衛生士も同行している。訪問マッサージ・リハビリを個人契約している利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	相談員と連絡を密にとり、退院時にはできるだけ早く元の生活に戻れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り指針の説明のほか、重度化した時にはご家族様に連絡を取り、ご本人の意向とともに十分に話し合い、看取り支援を行っている。	入居時に「重度化対応・看取り介護指針」を利用者・家族に説明し同意を得ている。利用者が重度化の際、医師から説明し、家族、医師、職員で話し合い、再度同意書を交わしている。研修は管理者が年1回行うが、フロア会議で必要に応じてリスク説明と対応手順を伝え、記録に残している。直近では本年7月に看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定、昼間想定 of 消防避難訓練を実施している。	年2回消防訓練を行い、直近では9月に夜間想定で「非常災害対応マニュアル」に沿って通報・消火活動、避難誘導を利用者と共に行った。2・3階の利用者はベランダへ、1階の利用者は近鉄線のガードを隔ててすぐの同法人の事業所への避難となる。備蓄品は水、食料品(乾パン、アルファ米、缶詰等)を3日分4階に一覧管理している。	夜間の職員体制は3名の夜勤者と1名の宿直者で、近隣事業所のサポートもあるが、地域の協力体制は難しい状況である。近隣事業所との連携強化と運営推進会議の議題として災害対策を挙げ、自治会長や利用者家族への理解を得ながらの協力体制構築に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアルを利用し研修をしている。	接遇研修は入社時の他、年1回行っている。「接遇マニュアル」に基づき、3カ月に1回チェックリストを提出し、問題個所についてフロア毎のミーティングで話し合うようになっている。不適切対応については皆で注意し合っている。個人情報の管理は適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとり、日常的に思いを引き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事などご本人様のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を一緒に選んだり、髪型をアレンジしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事、イベント前後の準備、後片付けなどをしている。	食材業者からの献立と調理済み食材を湯煎し、ご飯と汁物は職員が作っている。毎月のイベント食ではたこ焼きパーティやビザパーティ、手作りおやつ等、職員と利用者で楽しみながら行っている。外食はできていないが、利用者の希望により寿司の出前やマクドナルドのテイクアウト等を利用し盛り上がるひと時となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の助言の元、飲水量、飲食量を個別にあしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の毎月の指導のもと実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを考えながら支援している。	車いす利用者は10名であるが、できる限りトイレ誘導し立位保持と排泄ができるよう支援している。尿意がない場合も戻ることがあり、おむつ使用からリハビリパンツに改善した事例がある。タブレットを使用し、バイタルチェックから排泄、パッド交換時の皮膚疾患とその対応まで記録し、細やかに一元管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物も気をつけたり・ホットパットをし、腹部を温めたり、運動を促したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様のペースや体調に合わせて臨機応変に対応している。	入浴日は週2回午前中と決めているが、利用者の希望に応じて対応している。浴槽は三方向介助ができるようになっているが、湯舟につかれない利用者のために温浴シャワーを設置して、車いすから浴用いすを利用し座ったまま温まることができる。お気に入りのシャンプー、リンス、入浴剤を使用している利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使っていた布団の持ち込みによる安心感を大事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師のご指導のもと、薬情を確認しながら服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様からの意向を常に確認をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	努めている。	コロナ禍前は近隣散歩や買い物、また毎月外出イベントを行っていたが、今はすべて中止となっている。当月から緊急事態宣言が解除となったので、様子を見ながら近隣の公園に出かけたり、少人数での外出を考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	イベントの写真や季節に合った飾りつけをしている。	毎日職員が清掃を行い、室内温度を確認し、換気と手が触れる場所の消毒を行っている。壁面には誕生会、敬老会のイベント開催時の写真やキノコの吊り下げ飾りや職員と利用者で作った折り紙飾りがあり、季節感と温かみのある共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に、馴染みのあるタンスやお仏壇などをご持参頂いている。	居室入り口には折り紙飾りをあしらった表札があり、ベッド、クローゼット、エアコン、防災カーテンが備え付けで、テーブル、いす、テレビ、整理ダンスなどお気に入りの物を用意している。趣味の編み物セットを持参している利用者もいる。内部監査で耐震対策(テレビの配置)やナースコールのチェック等があり安全面の配慮も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具を使用しながら、安全に暮らしていけるよう工夫している。		